

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～



長崎市立三原小学校

「誇りをもち、主体的で、自律できる子どもの育成」

～安全・安心を大切に作る三原っ子～



MIHARA TIMES

令和7年3月17日発行

文責 校長 増崎 祥宣

令和6年度学校評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。

今年度は12月2日～9日までの期間で、学校評価アンケートを行いました。大変遅くなりましたが、その中で、いくつかご意見・ご質問をいただいておりますので、学校全体に関することについて、可能な範囲でこの紙面上でお答えしようと思います。

<赤門や黄色門が、閉められていないことがあり、安全なのだろうかと感じます。>

黄色門については、開けたら最後の方が扉を閉めるよう門にも記載しているのですが徹底していません。赤門についても最後の方が門を閉めるようお願いしてはいたところですが、再度学童、バスケットクラブ、体育館使用者にも申し入れをしていきます。青門については門が重たく、車の出入りが頻繁なため、学校閉庁日や年末・年始など長期間学校が閉まっている時のみ門を閉めるようにしているところですので、ご理解いただきますようお願いいたします。

<担任の先生ともう少し連携がとれたらと思います。>

担任は、誰もが担任する子どもたちを責任もって、社会面にも学力面でもきちんと育てたい、本来の力を発揮させたいと願っています。その思いをもって日々指導にあたっているところです。しかし、受ける側の子どもたちに、その思いがなかなか伝わらないこともあります。そんな中で、子どもたちから様子を聞いた時に断片しか分からないこともあると思います。大事なことは、お互いの気持ちに寄り添って、子どもたちの成長を一番に考えることが大切です。そのためには、直接、話をする機会を担任も増やしたいと考えています。今年度から、面談や懇談会の機会を増やしています。教育効果を上げるのは、学校・家庭・地域の連携です。ぜひ、来校していただき、いろいろな話ができればと考えています。また、その他の機会でもお尋ねになりたいことがあればご連絡ください。勤務時間の関係や個別電話の使用が禁じられている関係上、ご不便をおかけするかもしれませんが、よろしく願います。

<支援が必要な児童への体制が不十分だと考えます。>

学校側としても、もっと個別の支援を充実させたいと考えているところです。しかしながら、どうしても人手が足りないというのが現状です。本校では、令和元年から毎年、通級指導教室の必要性を訴え、開設の申請を行っているところですが、残念ながら現在まで開設にいたっていません。支援員や学校サポーターの増員もなかなか叶いません。通級指導教室の常時開設となると、教諭1名が増えることになり、それに伴う人件費、またその教室運営用の予算もつくことになるため、県教育委員会の許可がなかなか下りないのが現状です。しかし、必要なことですので、今後も粘り強く申請していきたいと思っています。その際は同意書等ご協力いただきますよう、よろしく願います。

<体操服が防寒仕様になっていないので改善を希望します。>

体操服は、吸汗性に優れ、動きやすい仕立てになっています。しかし、防寒としては効果がないことから、本校では「よくわかる!三原小」でもお知らせしているように体操服の上からの防寒着を認めています。本人、周りの人への安全上の制限はありますが、寒さが厳しいときには、防寒着の準備をお願いします。

<給食着の匂いが気になるので、個人でエプロンを準備することはできないでしょうか。>

食べ物を扱うため給食着は必要です。しかし、家庭によって使う洗剤や柔軟剤が違い、匂いに敏感なため、なかなか慣れないというのも理解できます。したがって、そのような場合は、個別に対応したいと思いますので、まずは担任にご相談ください。

学校評価アンケートへのご回答、ありがとうございました。みなさんからのご意見について、真摯に受け止め、職員と検討し、回答したつもりですが、ご納得いただけたでしょうか。

三原小には学校の「**教育理念**」というものを設定しています。「**寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ!**」です。ご存じなかった方は、ぜひ今回覚えてください。

学校、保護者、地域みんなが知恵を出し、汗を出し合って、子どもたちの成長を支援していきましょうということです。三者のいずれかだけが頑張っても、十分に成長することができません。「啐啄同時」という言葉があります。『学ぼうとする者と教え導く者の息が合って、相通じること』という意味ですが、もともとは鳥の雛が卵から出ようと嘴でつつき、鳴く声と、母鳥が外から殻をつつくのが同時であるということからできた言葉です。子どもの自らの意思で伸びたい、またそれを支えたいという周囲の気持ちが合わさって、心身ともに大きく成長できるものだと思います。それを実現するためにも、これからさらに保護者との直接的な懇談会や面談、ICTを活用しての子どもの実態の把握や個人面談などコミュニケーションを深めることが必要です。

これからも三原っ子のために、ぜひお知恵とお力をお貸しください。また、それぞれが果たすべき役割をしっかりと果たしていくよう努めましょう。ぜひ、よろしく願いいたします。